

How to writing “Truth of the Legend”

“Unix考古学”の夕べ 2 2016/05/31 Akito Fujita

まずは御礼から

本日は皆さまお集まりいただきありがとうございます

私の初の単行本に想像していた以上に
多くの方々から注目を寄せていただいていることを
驚くとともに喜んでおります

(建前を棒読み)

しかし、人生にはいろいろあるなあ・・・と思ったり (本音)

人生にはいろいろある（１）

最近、３０年前ぐらいにどこぞで聞いた竹内郁男先生の講演の冒頭をよく思い出します・・・

“私は日頃、山に籠ってひたすら穴を掘る炭鉱夫のような仕事をしているので、たまに山を降りて街に出てくると何もかもが眩しくて・・・”

確かこの講演で竹内先生は”Excelは面白い”と仰っていて推論機能をマクロ関数として実装する話をされてました

人生にはいろいろある（２）

先週の広報の担当者との会話

広報「藤田さん、本を出版されたんですってね？」

藤田「あ、ご存知で...」

広報「ずいぶん話題になっているって聞きました」

藤田「ええ、まあ・・・」

広報「なんで事前に連絡してくれなかったんですか？」

藤田「だって・・・

こんな騒ぎになるって思ってたから」

心の叫び： 自分でも何が起ってるのかよくわからないのに
他の人に説明できるかあ!!

人生にはいろいろある (3)

入社以来、初めて和田英一先生にお願いされてしまいました
それも第1回の講演資料でパニックしてる最中に・・・

5月10日



Akito Fujita

2016/05/10 11:49

本日、和田先生に「UNIX考古学を貸してくれ」とお願いされてしまいました。献本の件、急ぎ対応をお願いします。



星野 浩章

2016/05/10 11:50

承知しました。至急発送します。

5月10日

和田先生にうかがったこと（１）

- 第１章に登場するマシンをリアルで体験されていた
- Whirlwind
 - 一部は富士通のどこかに置いてある
 - Gordon Bell が富士通の何かと交換したとのこと
- TX-0
 - 1958年の訪問時に TX-0 を見学した
 - キーボードは Flexowriter ？
 - 1973年頃、MITで教鞭をとっておられた頃は学生用
 - 学生がTX-0でプリントアウトしたレポートを持ってきた
 - もちろんワープロが無かった時代の話です

和田先生にうかがったこと（２）

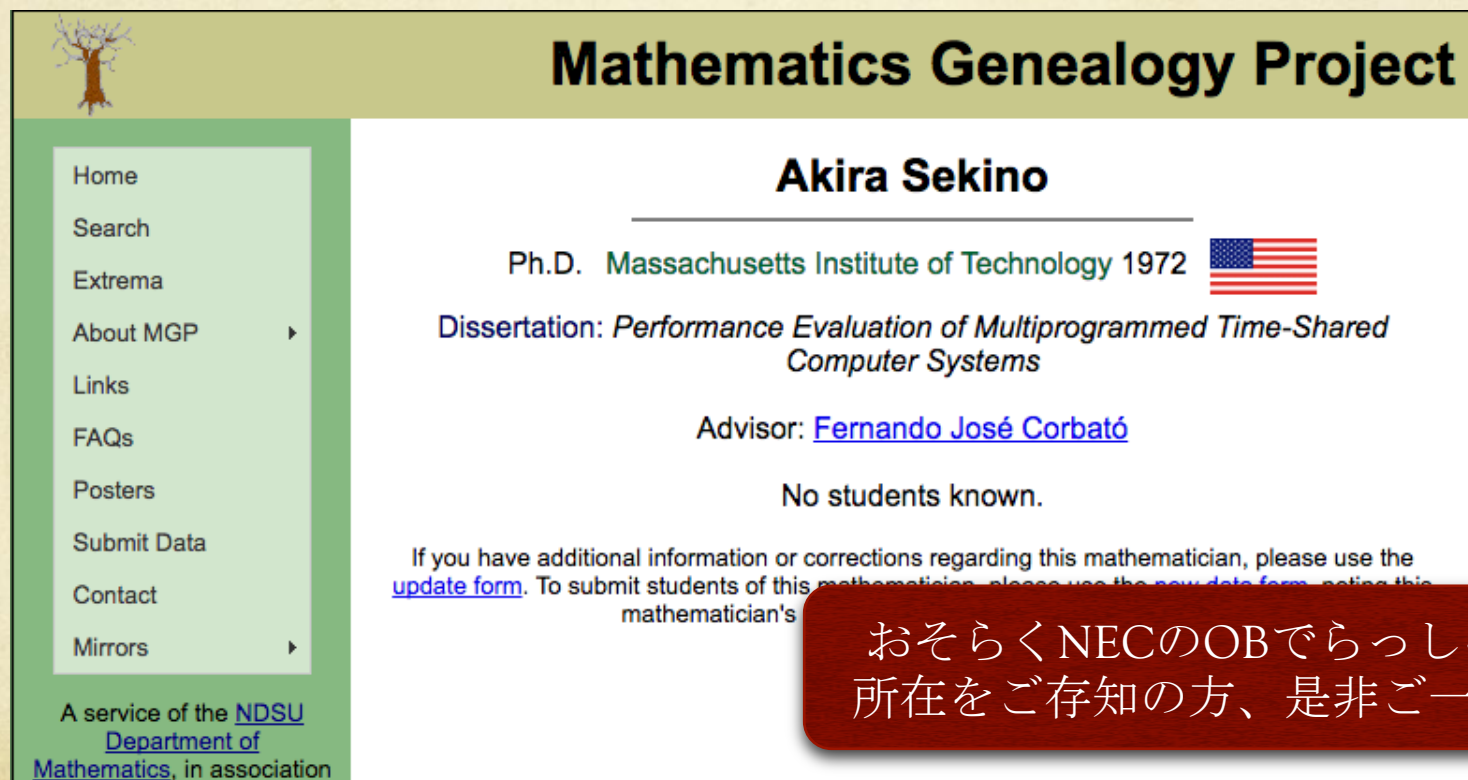
- 修士時代に JCR Licklider の研究を参考にされていた
 - “彼は音声の零交差波(clipped speech)の実験していて、その研究を参考に、私は修士の学生のころ、同じような実験をしました”
 - “パラメトロンの回路で母音の零交差波を発生し、その品質を調べたりしました。楽しい実験でした。”
 - Licklider は心理学の先生と安直に理解してたけど、違う？
- タイムシェアリング
 - Christopher Stracheyが1958年パリのUNESCO の会議で提案したのが最初
 - その後、MITでIBMの計算機にCTSS(Compatible TimeSharing System)を載せて実用化
 - ひょっとして僕は大部分情報を見落としてないか・・・

和田先生にうかがったこと (3)

- Doug McIlroy は IFIP の会議でパイプを連呼していた
 - “その後Unixに実装されていたので驚いた”
 - この情報をDennis Ritchie のホームページにある、いずれか論文に書かれていたことをそのまま書いたのだけど・・・
 - 僕は「McIlroyはBTL内部で騒いでいただけ」と想像していたけど、実はもっと大騒ぎをしていた？
- 今、和田先生は Raspberry pi で BCPL を動かしている
 - “BCPLは本書にあるようにMartinがMITで開発したので、私はMITで少し使いました。(ほとんどはMacLispでした) 私の持っているBCPLのマニュアルはMAC TR-141というProject MACの文書です”
 - 未だ現役なんだ・・・

和田先生にうかがったこと（４）


1960年代にMITで Multics の性能評価で博士号を取得したAkira Sekino さんという方がいらっしゃるののこと



The screenshot shows the Mathematics Genealogy Project website for Akira Sekino. The page has a green header with the project name and a tree logo. A left sidebar contains navigation links: Home, Search, Extrema, About MGP, Links, FAQs, Posters, Submit Data, Contact, and Mirrors. The main content area for Akira Sekino lists his Ph.D. from MIT in 1972, his dissertation title, his advisor Fernando José Corbató, and a note that no students are known. It also includes a link to an update form for additional information.

Mathematics Genealogy Project

Akira Sekino

Ph.D. [Massachusetts Institute of Technology](#) 1972 

Dissertation: Performance Evaluation of Multiprogrammed Time-Shared Computer Systems

Advisor: [Fernando José Corbató](#)

No students known.

If you have additional information or corrections regarding this mathematician, please use the [update form](#). To submit students of this mathematician, please use the [new data form](#), noting this mathematician's

A service of the [NDSU](#)
[Department of](#)
[Mathematics](#), in association

おそらくNECのOBでいらっしゃる
所在をご存知の方、是非ご一報を

<https://www.genealogy.math.ndsu.nodak.edu/id.php?id=105784>

How to writing “Truth of the Legend”

- この本をどのようにして書いたのかをもう少し説明します
 - 第1回講演会で法林さんから質問があったので・・・
- 基本的な方法： ビーズの首飾りを作る感じ
 - まずストーリーの軸になるドキュメントを探す
 - 開発プロジェクト毎に通史を扱ったドキュメント
 - 時間軸に対して正確（前後関係が正しい）なのが絶対条件
 - 次に個々のトピックに関する詳細情報（論文等）を探す
 - まず頼りになるのが Wikipedia 英語版
 - 対象トピックに関連のあるその他のトピックへの展開に役立つ
 - あと開発者のホームページやプロジェクトのホームページ
 - ちゃんと論文のページ（Publication）が用意されているのは信用できる

How to writing “Truth of the Legend”

○ 基本的な方法（続き）

- 軸ドキュメントに沿ってトピックドキュメントを並べる
 - 相互矛盾するトピックドキュメントはどちらが正しいか決める
 - 特定の立場に立脚していると思われるドキュメントは対立する主張を述べたドキュメントも探す
 - 複数のドキュメントを合体して1つのトピックを記述することもある
- 時系列にそって流れるストーリーを考える
 - 僕独自の”演出”を施します
 - 読者が理解・共感しやすいと思われる枠組みをハメる
 - 主人公とか敵役を設定すると理解・共感が向上する
- ストーリーに沿って書き下ろす
 - トピックドキュメントを読みながら枠組みに収める

How to writing “Truth of the Legend”

- BTL Research Unix（第2章～第7章、第10章）
 - 軸ドキュメントは“A Quarter Century of UNIX”
 - っていうか邦訳「UNIXの1/4世紀」
 - 海外のUNIXコミュニティのトピックが満載
 - ...でも、実は軸を作りにくかった
 - 前後関係はかなり飛んでるのでパズルの作業が必要だった
 - トピックドキュメントは主に Dennis Ritchie ホームページ
 - 掲載されている論文はほぼ全部眺めた
 - でもちゃんと翻訳して読んだのはごく一部
- “Bell Labs Technical Journal, Vol. 57, No. 6, Part 2,”も役に立った
 - [http://ftp.math.utah.edu/pub/tex/bib/toc/bstj1970.html#57\(6\):July/August:1978](http://ftp.math.utah.edu/pub/tex/bib/toc/bstj1970.html#57(6):July/August:1978)
 - 第6章は論文 “UNIX Time-Sharing System: The Programmer’s Workbench” のみで書いた

How to writing “Truth of the Legend”

- UCB Berkeley Unix (第 1 1 章～第 1 4 章、第 1 8 章)
 - 軸ドキュメントは “Twenty Years of Berkeley Unix”
 - <http://www.oreilly.com/openbook/opensources/book/kirkmck.html>
 - 翻訳版もある
http://www.law.co.jp/okamura/OpenSource_Web_Version/chapter03/chapter03.html
 - トピックドキュメントは軸ドキュメントに出てくる固有名詞をひたすら検索
 - 軸ドキュメントでかなり詳しく言及されているので「裏取り」的な感覚でドキュメントを集めた。
- 第 1 回講演会で紹介した “Further Reading” はつまみ喰い
 - ” OSI: The Internet That Wasn’t”
 - ” BSD Unix: Power to the people, from the code”

今後の予定

- 講演会はもう少しやります
 - 7/30のOSC京都がラスト（体力的に続かないから）
- 次は Multics で書きたいと考えてます
 - 第1章だけで1冊書けるんじゃないかと考えてます
- その他は・・・
 - 仕事もしなくっちゃねえ